

保健体育科 保健分野 学習指導案

上野 佳代（授業者）

2

授業実践の記録と分析

保
健

1. 基本情報

- ・日時 2016（平成28）年9月15日（木） 第6校時（14：20～15：10）
- ・場所 東京学芸大学附属小金井中学校 3年B組 教室
- ・学年 第3学年B組 40名（男子20名 女子20名）

2. 単元名（題材名）

「感染症」

3. 単元について

3.1 単元の特性（単元設定の理由）

（1）教科からみた特性

中学3年生の保健分野では、健康な生活の保持増進が主となる学習内容である。「感染症」の単元では病原体の感染によって健康が脅かされる疾病について理解を深めること、自分の力で感染症を予防すること、また感染症にかかったとしても適切な治療法から健康な生活を取り戻す方策を考えることは、生涯を通して必要な力である。中学生にとって、感染症は、これまでに複数の感染経験を持っているため身近な存在ではあるといえよう。しかしその要因や予防法に関しては、部分的かつ断片的な知識で成り立っており、それで十分に理解していると捉えている危険性が存在する。さらに、新たに起こりうる感染症に対しては、対処法がまったくわからない状況であることも想定できる。生涯を通して健康な生活を営むために、感染症に関して、自分事として捉えて考え対応できる力をつける機会としたい。

（2）汎用的スキルや態度・価値の育成の観点からみた特性

☆汎用的スキル

現在、中学生にとって多くの情報を簡単に手に入れることができる状況であるが、これからの社会で生きていくためには、その種々の情報に流されてしまうのではなく、その正しさを問い、根拠に基づいて、捉えなおすことが必要となってくる。感染症に関して、多くの情報を整理しながら理解を深めていくことは、多様な視点から物事を見つめる力がつくと考えられる。

また、感染症の予防や治療に関しても、副作用やリスクも視野に入れて納得のいく選択を考えることから多面的な思考力を育てることもできる。

☆態度・価値育成

正解が一つとは限らない課題に対し、仲間と意見交流する中で解決を目指しながら、自分とは異なる意見を受け入れたり、多様な考え方や価値観があることを理解したりすることができるようになる。また、未知なできごと（新興感染症への対応等）に対しても、何をどうすればどのようなことが起きるのかといった理論的な予測、判断する力をつけることができると考えられる。

3.2 単元の目標

（1）教科固有の単元目標

- ・感染症の発生要因やその予防、対処法について、理解する。

（2）汎用的スキルや態度・価値の観点からみた目標

①汎用的スキル

「批判的思考力」

- ・多様な情報に対して、客観的または論理的に評価し、正しいと言える根拠を明確に表すことができる

ようにする。

- ・課題に対して、多様な視点を持って分析し、多面的に思考することができるようにする。

「先を見通す力」

- ・過去の事例から、何をすればうまくいくのかを予測し、適切な判断ができるようにする。
- ・自身の経験や様々な事例から、リスクを認識し回避する方策を考えることができるようにする。

②態度・価値

「他者に対する受容・共感・敬意」

- ・課題解決を目指して意見交流する中で、様々な考えや意見、価値観があることを理解し、受け入れることができるようにする。

3.3 生徒の実態

前単元の「生活習慣病」で、若い世代からの生活習慣によって発病すること、今から生活習慣を見直すことで解消される可能性が高いことを学んでいる。また、健康を保持増進させるためには今の自分の知識と生活の見直しの必要性を理解している。感染症は、病原体が身体に侵入することから発症するため、生活習慣と関連がないと感じてしまうことが考えられるが、本人の抵抗力を高めるという観点では生活習慣とも関連があることに気づかせたい。また、新しい情報に関しては敏感であり、興味関心も高く、理解だけでなくさらなる疑問を持つことができる生徒も少なくない。これらの学習活動から、健康をより総合的にとらえる思考が生まれることを期待したい。

3.4 教材観

健康をより総合的にとらえる思考が生まれることを期待して、4人グループによる意見交流の場を設定する。仲間とディスカッションすることは他教科でもよく行われていることから、このような学習活動には慣れているが、それぞれの意見を分析したり評価したりしながら、新しい考え方を構築していくような深い学びにはなかなか到達できない。そのためには、じっくりと討議できる時間的余裕のある授業の流れが必要だと感じている。

また、他の意見を尊重しながらも、最終的には自分なりの主張を持つことができるようにしたい。課題に対して主体的に取り組むことができるように、母子手帳の記載事項を確認したり、最近話題となっている子宮頸がん予防ワクチンの副作用をとりあげたりしながら、課題が身近なものであり、その解決の必要性を強く感じることができるようする。

3.5 指導上の工夫（アクティブ・ラーニング活用方法も含む）

①基礎的な知識習得の保証

- ・課題解決に向けて、クラス全体で共有する必要がある知識に関しては、授業者から提示して習得させる。生徒が持ち合わせていることが予想されるような断片的な知識に関しても、整理し、再確認させる。

②グループディスカッション

- ・共有した知識をもとに、グループディスカッションで課題解決に取り組ませる。グループは、発言機会の自由度を保証し、異なる意見が出現しやすい環境にするために、男女混合の4人グループとする。ディスカッション中は、活発に意見交流が行われているグループに対しては、より根拠を持ち合わせた主張になるように促し、意見がでにくいグループに対しては、アドバイスやヒントを与えるようにする。また、どのような傾向に流れているのか、全体把握をしながら、次に提示する課題が適切であるかを考える。

3.6 単元の評価計画（評価規準・基準，評価方法）

評価規準		評価方法
・感染した時の行動や抵抗力を高めるための健康管理及び生活習慣について関心を持ち、実践する意欲を持つ。（関心・意欲・態度） ・感染症の予防対策を，感染源，感染経路，体の抵抗力のそれぞれに対して仲間と意見交流しながら考える。（思考・判断） ・感染症の発生要因やその予防，対処法について理解する。（知識・理解）		・観察 ・ノート ・発言内容
A（十分到達）	B（おおむね到達）	C（努力を要する）
・感染予防のための健康管理や生活習慣について関心を持ち，具体的な方策を立てて取り組もうとする。（関心・意欲・態度） ・感染症の予防対策を明確な根拠を持って表すことができる。（思考・判断） ・感染症の発生要因やその予防について，地球規模も含めて理解している。（知識・理解）	・感染予防のための健康管理や生活習慣について関心を持ち，取り組もうとする。（関心・意欲・態度） ・感染症の予防対策を表すことができる。（思考・判断） ・感染症の発生要因やその予防について理解している。（知識・理解）	・感染予防のための健康管理や生活習慣について関心を持つことができない。（関心・意欲・態度） ・感染症の予防対策を表すことができない。（思考・判断） ・感染症の発生要因やその予防について理解できない。（知識・理解）

3.7 単元の指導計画（全2時間）

時間	主な学習活動（時間数）	教師の指導・評価・留意点
第1次 （1時間）	感染症の発生要因と免疫について理解する。 1. 発生の主原因は，病原体の体内への侵入であることを知る。 2. 以前学んだ「自然治癒力」の一つとしての免疫と病原体の関係を理解する。 3. 克服されたように見える感染症の再燃（結核等），薬の効かない感染症の発現と関連づけて理解を深める。	自分で健康管理する必要性を再確認する。 グループディスカッション1
第2次 （1時間）	感染症の予防対策を具体的に考える。 1. 身近な感染症を取り上げ，感染源，感染経路，体の抵抗力のそれぞれに対して整理して考える。 2. 予防に限界がある未知の感染症に対しては，どのように対応したらよいかを考える。 ⇒自分の抵抗力を高めること，情報に敏感であることが重要であることに気づかせる。 3. 抵抗力を高めるために，今の自分が心がけること，今できることは何かを考える。	グループディスカッション1 グループディスカッション2

4. 本時（第2次）

4.1 本時の目標

- ・感染症の予防三原則を理解し，具体的な対策として必要なことを考える。
- ・抵抗力を高めるために今の自分に必要なことやできることを考える。

4.2 評価規準

- ・感染症に対する予防法について関心を持ち，実践する意欲を持つ。（関心・意欲・態度）
- ・感染症を予防するために必要なことを，仲間と意見交流しながら考える。（思考・判断）
- ・感染症の発生要因や予防三原則について，理解する。（知識・理解）

4.3 前時までの生徒

身近にある感染症が，菌やウイルスが原因であることや体内に侵入するだけでは発症しないことを理解することができた。また，予防法としてワクチン接種がもっとも効果があるが，新しい病原体や耐性を持った病原体が出現し続けている現実を知り，完全に予防することができないことも理解した。

そのような状況の中で，可能な予防法には何があるのかを知りたいと感じている。

4.4 準備物

- ・ホワイトボードシート（グループ発表時に使用）
- ・ホワイトボード用ペン

4.5 本時の学習指導過程

時配	学習内容と活動	指導上の留意点・評価
導入 10分	1. あいさつ 2. レポート発表 ① 4人が前時の「感染症の原因」に関連するレポート発表をする。 ・発表内容（「感染症の予防」「ゴキブリって不潔なの?」「・・・」「・・・」） ・発表は1人約1分におさめる。 ②発表後、4人分の内容を総括して感想をノートに書く。 3. 前時の既習内容と関連させて、感染症の原因について、再確認する。 「病原体が体内に侵入するだけでは必ずしも発病するとは限らない。」	・前時の内容を振り返りながら聞かせる。 ・レポート内容は、B4用紙1枚にまとめて、全員に配布する。 ・さまざまな菌やウイルスが空気中に存在しており、人間はそれらと共生していることを理解させる。
展開 35分 (15分)	<4人のグループ活動の座席にする> 4. 前時のグループディスカッション内容から感染症の流行の仕方を理解する。 課題：「結核の減少はなぜ停滞しているのか？」 ①各グループの発表内容から挙げた項目を整理する。 ＊挙げられた主な項目 ・ワクチンより強い菌の誕生。 ・予防接種の軽視。 ・結核に対する知識の無知。 ②挙げられた項目を、感染症の発生要因である「感染源」、「感染経路」、「体の抵抗力」に関連付けて理解する。 ③感染症の発生要因から自身の発症の可能性を探る。 発問：「一生のうちで自分は結核になるか？」 ・ノートに記述する。 ・数人を指名して発表する。	・4人で机を合わさせる。 ・前時に各グループがシートに書いた内容をA3用紙1枚にまとめ、見比べることができるようにする。 ・自身の周りの環境や、自分の抵抗力について認識させる。 ・結核だけでなく、感染症を発症させないために自分ができることは何かを考える機会にさせる。
(20分)	5. これからの感染症対策について、考える。 課題：「海外にホームステイすることになった。感染症対策を考えよう。」 ＊予想される答え ・ホームステイ先の国の状況を調べる。 ・予防接種があれば受ける。 ①各グループで考えた内容をシートに記述する。 ②シートを掲示し、他のグループの考えと比較する。 6. 世界三大感染症を知る。 「マラリア」「結核」「エイズ」	・どんな感染症が存在するのかを、予想させる。 ・各グループにシートを配布する。 ・未知の感染症に対する予防には限界があり、最終的には自分の抵抗力を高めることが重要であることに気づかせる。
まとめ 5分	7. まとめ ・本時の感想をノートに記述する。 ＊感想のポイント ・病原体と共生する。 ・感染症を防止する。 8. 次時の予告をきく。 9. あいさつ	・感染症は生活習慣病ではないが、自身の生活習慣から抵抗力をつけ防ぐことができることに気づかせる。 ・自分で健康管理する必要性を再確認させる。

4.6 板書計画 生徒の発言によって内容が変更することもあります。

感染症の予防対策 ＊感染症 ・病原体が体内に侵入しただけでは発病しない。 ・体内で共生している菌も存在する。 ＊結核患者が減少しない原因 例 ・菌が強くなる。 → 感染源 ・結核を軽視している。 → 感染経路 ・予防接種をしない。 → 主体	＊「海外にホームステイに行くことになった。 感染症予防として何をするか？」 (生徒からの意見を記述) 例 ・情報を得ること。 ・抵抗力を高めること。
---	--

資料1

1 時間目の授業計画 「感染症の発生要因と免疫について理解する。」

時配	学習内容と活動	指導上の留意点・評価
導入 5分	1. あいさつ 2. レポート発表 ①担当の4人が前時の「生活習慣病」に関連して 気になることをレポート発表する。 (「酒・たばこの良い点・悪い点」「お酒を飲む 時の食べ物」「意外な生活習慣病『滑舌』」 「・・・」) ②感想をノートに書く。 3. 生活習慣病と感染症の相違について考える。	・生活習慣との関わりを考えるように促す。 ・生活習慣以外の原因で起こる病気存在に気づく。
展開 30分	4. 感染症の発生要因について理解する。 「病原体が体内に侵入するとどうなるか？」 ・自由に発言する。 5. 免疫のシステムについて理解する。 6. 母子手帳の記載内容の変化を参考に、感染症の 推移を知る。 7. 日本での結核の感染状況を知る。 ・明治時代の結核の存在、それから発明された治 療法や予防接種について知る。 ・消滅しつつあった結核が再流行している現実を 知る。(学習塾での集団感染のニュースを紹介 する。) 8. グループディスカッション 課題1「なぜ治療法があるのに撲滅しないのか？」 ・4人グループで、考えをまとめてシートに記述 する。 9. 各グループの考えを交流する。 ・シートを黒板や壁面に貼り、意見の相違を理解 する。	・感染症の発生要因を、教科書(p126)を利用し て説明する。 ・これまでの経験を思い出しながら発表を促す。 ・以前学んだ「自然治癒力」の一つとして免疫があ ることを関連づけて理解させる。 ・現在、25年前、50年前と比較して、消滅して いる感染症が存在することに気づかせる。 ・細菌は生物であり、変化するに気づかせる。 ・克服されたように見える感染症の再燃(結核等)、 薬の効かない感染症の発現に関連づけて理解を深 めさせる。
まとめ 5分	10. 本時の感想をノートに記述する。 11. 次回のレポート発表予告 12. あいさつ	・「感染症の原因」に関連したレポートを用意する ことを確認する。